

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.197 2015.3.1

学都松本を代表する文化財が 名古屋大学で紹介されました



重要文化財旧開智学校校舎は、
昭和40年4月1日に教育博物館として開館してから
今年で50年目を迎えます。

重要文化財旧開智学校校舎



県宝旧長野地方裁判所松本支部庁舎

重要文化財馬場家住宅

重要文化財旧松本高等学校本館

県宝松本市旧司祭館

平成27年1月23日(金)に名古屋大学にて「開智学校のウチとソト」をテーマに研究交流会が開催され、
斉藤金司教育委員長が学都松本の歴史や取り組みについて研究報告をしました。(詳細は3ページ)

| | | | |
|-----|-----------|---|-----|
| もくじ | 誌上博物館 | ◇ 新春企画展「郷土の生んだ彫刻家 太田南海」開催報告～太田南海研究への期待～ | 2-3 |
| | 博物館TOPICS | ◇ 重要文化財馬場家住宅研究センター平成26年度研究交流会「開智学校のウチとソト」 | 3 |
| | | ◇ 松本の春、見つけた2015 月遅れのひな祭り展 | 4 |
| | ガイドコーナー | ◇ はんてんぼく | 4 |

新春企画展「郷土の生んだ彫刻家 太田南海」開催報告

～太田南海研究への期待～

1 はじめに

松本市立博物館では、平成 27 年 1 月 3 日（土）から 2 月 15 日（日）まで、標記の企画展を開催し、今まであまり知られていなかった太田南海の作品や関係資料を多く紹介することができました。本紙では、本展の開催とそれに伴う調査によって得られた成果について紹介します。

2 太田南海の評価

明治 21 年（1888）中町に生まれた太田南海は、彫刻家として有名です。特に、木彫の分野に優れ、出品・受賞歴が多く、昭和 16 年（1941）には、文部省美術展覧会に事前の選考なしで出品できる「無鑑査」の資格を得ました。南海は、近代日本においてトップクラスの木彫家であったと言えるでしょう。本展では、その魅力を大いに紹介することができました。また、会期中に多くの皆様のご厚意により、たくさんの作品情報を得ることができました。

そして、同時に再認識されたのは、木彫のみをもって太田南海という人物を評価すべきでないということです。その創作活動は、絵画、陶芸、俳句、建造物の設計など多岐にわたります。こうした南海の仕事がどれも素晴らしいものであることは、先行する文献で過去に触れられており、本紙において詳述を尽くすことはできません。

3 松本美術会と清和会

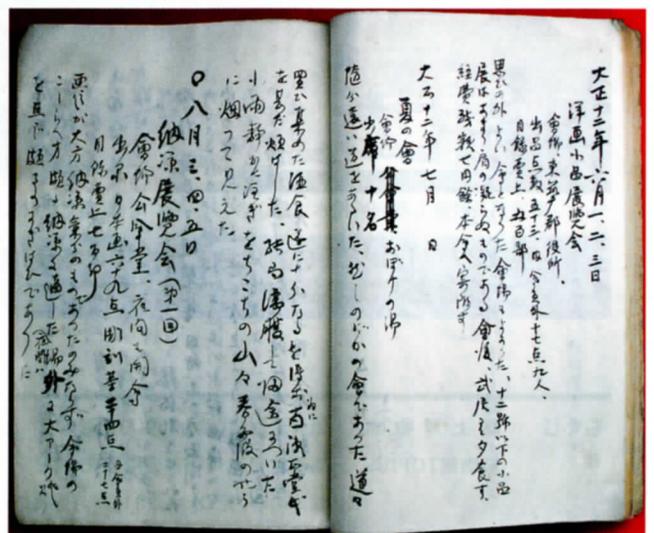
本展の主たる成果のうち特筆すべきは、太田南海の活動に付帯した文字資料が多く残されていて、なかには、松本平における近代美術の黎明を考察するときに、重要な資料群となりうるものが含まれているということです。それらの資料群の中から、本展において見出すことができたのは、「松本美術会」と「清和会」という 2 つの結社の動きの一端です。

大正 8 年（1919）に発足した松本美術会については、平成 19 年（2007）に松本市美術館で開催された展覧会『松本平の近代美術—美術館を夢見た作家たち—』において、この地域における絵画、彫刻、工芸を総合した結社の黎明であることが指摘されています。ここでは、同会が市内各所で展覧会を開催するなど、活動は昭和 10 年代まで続いたと紹介されています。しかし、今回の調査では、ここから一歩踏み込んで、同会に市内外から著名な画家や実業家など 92 名が名を連ねていたこと、発足から昭和 14 年（1939）までの間に少なくとも 25 回の展覧会を主催・運営していたことがわかりました。また、大正 12 年に会員の懇談会と推察される「夏の会」が「おぼけ

の湯」で開催され、買い集めてきた「酒食」が十分でなく、「百瀬正堂氏」（第 3 代松本市長・百瀬渡、当時は県議）を煩わせたとの記載があり、松本美術会が芸術家のみで構成されていたのではなく、政界人の関与も積極的であったという側面も知ることができました。このほか昭和 23 年の記載と推察される記録には、「松本美術会再興」について「太田氏ヲ中心トシテ興ス」とあり、昭和 10 年代をもって終焉したと推測されていた活動が、戦後再興された可能性も見えてきました。以上のように、太田南海関係資料によって松本美術会の活動年代や活動内容などを検証することができるようになったのです。

加えて見逃せないのが清和会という南海の支援者が中心となって立ち上げたサロンについてです。この存在は、南海の令息・太田滋氏の共著『彫刻家 太田南海 豊かな才能に彩られた人生』で明らかにされていますが、本展では、その記録の一部をご紹介します。この会の主体は、本町の実業家を中心とする南海の支援者達であって、彼らが南海を囲んで集まりをもったことが推察されます。

興味深いのは、この会が単なる懇親のみでなく芸術に対する深い議論の場であったということです。昭和 25 年（1950）の第 1 回の概要は、西郷孤月の作品を松本市が「聚集高評スベシ」との議論がなされたことが記載されています。明治時代に活躍した松本出身の高名な画家の作品を松本市が一丸となって保存し、宣伝すべきことを彼らは志向していたのでしょう。同様に各回の記録からは、作品、作家などについてメンバーが盛んに討論していたことがわかりました。このほか、清和会のメンバーは、連れ立って旅行もしていました。南海の風景素描と



松本美術会「大正八年以降 会員名簿 会則 年次紀要」

そこにある記載から、昭和 28 年には石山寺（滋賀県）に赴いたことがわかります。美術論に留まらず南海の創作自体にも、この会が影響を与えた可能性が推察されます。

以上のように、南海の関わった 2 つの結社について触れましたが、こうした結社が展覧会などの活動により芸術を敷衍し、各種の議論によって南海をとりまく文化界の内実を深遠にし、大正中期から戦後にかけて、この地域の芸術・文化水準を底上げしたことは、間違いありません。言い方を変えれば、太田南海という人物は、松本平の芸術・文化にある種の胎動をもたらしていたと定義することもできます。

4 おわりに～太田南海研究への期待～

太田南海の足跡は、その才能が多彩であったことを裏付けるかのように多面的であり、今後検証すべき課題は多分にあります。例えば、南海は古物に関心を持ち蒐集していましたが、蒐集家としての



蒐集品「孔雀文馨」

側面は、本展において紹介することができませんでした。また、述べてきた事柄についても、考察は十分ではありません。

近代の松本地方における芸術・文化の営みを、なお明らかにするために、太田南海という存在は避けて通れない一隅となるでしょう。今後、市域において太田南海と関連資料の研究が一層闊達となることを期待します。

（松本市立博物館 学芸員 / 草間厚伸）

重要文化財馬場家住宅研究センター平成 26 年度研究交流会 「開智学校のウチとソト」

平成 27 年 1 月 23 日（金）名古屋大学で研究交流会「開智学校のウチとソト」が開催されました。研究交流会では、斉藤金司松本市教育委員長による学都松本に関する発表と、名古屋大学教授の吉川卓治氏と西澤泰彦氏による研究発表が行われました。

- (1) 斉藤金司教育委員長「学都松本へ—まちづくりとしての人づくり」

松本市が標榜する学都の実現のため、現在の状況やこれから目指すべき姿を発表しました。また、学都松本の源流は、開智学校にみえるとし、開智学校の子守教育や特殊教育の取り組みなどを紹介しました。

- (2) 吉川卓治氏「学校の中を流れる時間—時間規律はどう作られたのか—」

旧開智学校所蔵の時間割や学校日誌をもとに、小学校に時計や休み時間といった「時間」の概念がどうやって浸透していったのかの調査報告が行われました。

- (3) 西澤泰彦氏「学校建築のおもしろさ—擬洋風建築を中心に—」

旧開智学校校舎の建築様式である「擬洋風建築」について、その魅力と特徴を調査した研究報告が行われました。

- (4) 意見交換会

近代の学校は子どもの居場所となったのか、学校と公民館はどのような営みを起源するものなのかといった問題提起が行われました。

様々な観点から開智学校や松本を考える機会となり、非常に有意義な研究交流会となりました。

（重要文化財旧開智学校校舎 学芸員 / 遠藤正教）



斉藤金司教育委員長による発表の様子

松本の春、見つけた2015 月遅れのひな祭り展

ひな祭りは、3月3日の上巳じょうしの節句に、女の子がいる家で雛人形や桃の花を飾る行事です。松本地方では、旧暦に近い、ひと月遅れた4月3日にひな祭りを行う「月遅れ」の風習が残っています。

松本で「ひな」といえば、かつては押絵雛おしえひなのことをいいました。押絵雛とは、裂細工さげの半立体的なひな人形です。厚紙を布で包んで綿を入れ、貼りあわせて作ります。奈良時代に中国から伝わったといわれ、江戸時代には、各地で製作されていました。

ここ松本地方では、江戸時代末期から押絵雛の製作が始まったとされます。松本藩主の戸田氏が武士の家に製作をすすめたといわれ、押絵雛は松本で盛んにつくられます。江戸時代には、すでに松本の名産のひとつとされており、他の地方へも運ばれていました。明治時代になると大量生産されるようになり、女学校で押絵雛作りを教えていたという記録も残っています。しかし、大量生産は、品質の低下を招きました。また、交通の発達によって現在ひろく飾られる雛人形(坐雛)が普及したことなどもあり、押絵雛は、次第に飾ら

れなくなっていきます。

松本市立博物館では、現在約800点の押絵雛を所蔵しています。今回は、その中からさまざまな種類の押絵雛を中心としたひな人形を展示するとともに、押絵雛の製作工程や製作道具を紹介します。今では目にする機会が少なくなってしまった押絵雛ですが、本展覧会が押絵雛に親しむ機会となれば幸いです。

また、月遅れのひな祭り当日である4月3日には、ご来館された方に甘酒をふるまいます。上巳の節句には、もとは桃の花びらを漬けたお酒「桃花酒」が飲まれていましたが、その代わりとして、子どもでも飲める甘酒が飲まれるようになったといわれています。今では、菱餅やひなあられと並んでひな祭りにかかせない品のひとつとなっています。この機会にぜひご来場ください。

(松本市立博物館 学芸員/丸山和子)



松本押絵雛
内裏

ガイドコーナー はんでんぼく

松本の春、見つけた2015 月遅れのひな祭り

会期 3月3日(火)～4月5日(日)
会場 松本市立博物館、はかり資料館、重文馬場家住宅

甘酒サービス

日時 4月3日(金)午前9時30分～
※なくなり次第終了
会場 松本市立博物館、はかり資料館、重文馬場家住宅

空穂記念館から ☎0263-48-3440

コーナー展「歌会始と空穂」

会期 3月29日(日)まで
会場 窪田空穂記念館常設展示室
料金 通常観覧料(大人300円、中学生以下無料)

「松本の子どもの短歌・2014」入賞作品展

会期 3月21日(土)～4月12日(日)
会場 窪田空穂記念館会議室
料金 無料(常設・コーナー展は通常観覧料)
問合せ 空穂記念館まで

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

まる博 de ウォーキング～松本城三の丸から東町を歩く～

市民学芸員と博物館が作った地図を片手に、市民学芸員の案内で歩きながら城下町松本の魅力を再発見する企画です。
日時 3月22日(日)午前9時30分～12時(小雨決行)
会場 松本市立博物館前(松本市丸の内4番1号)に集合後、市街地散策。
定員 20名(先着順)
料金 200円(資料代)
申込み 当日までに電話等で松本市立博物館へ

松本民芸館から ☎0263-33-1569

八十二ウィンドーギャラリー展「松本民芸館の魅力」

会期 4月3日(金)～5月8日(金)
会場 八十二銀行サテライトギャラリー
問合せ 松本民芸館まで

四賀化石館から ☎0263-64-3900

「福寿草まつり」期間中、来館者に化石プレゼント

会期 3月14日(土)～3月24日(火)(会期中無休)
会場 四賀化石館(毎日先着30組)
料金 通常観覧料(大人300円、中学生以下150円)
問合せ 四賀化石館まで

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

企画展「思誠寮の青春日記～戦争が終わって～」

会期 3月7日(土)～5月6日(水・祝)
会場 旧制高等学校記念館1階ギャラリー
料金 無料(常設展は通常観覧料)
問合せ 旧制高等学校記念館まで

時計博物館から ☎0263-36-0969

時計ネジ巻き見学会

日時 3月21日(土)・22日(日)午前8時30分～9時30分
会場 松本市時計博物館 常設展示室(1・2階)
定員 20人
料金 通常観覧料(大人300円、中学生以下150円)
申込み 事前申し込み不要

考古博物館から ☎0263-86-4710

春季企画展「わが地区の逸品～神林地区の遺跡～」

会期 4月25日(土)～6月28日(日)
会場 考古博物館2階 第2展示室
料金 通常観覧料(大人200円、中学生以下無料)
問合せ 考古博物館まで

あとがき

市内には、多くの歴史的建造物があり、現在博物館として公開しているのはごく一部です。多くの建物は、今でも店舗や住宅として使用され、生活に溶け込んでいます。ふだんは気づかない歴史的な建物も、展示を通して紹介していきたいと思います。(H.M)

あなたと博物館 No.197

発行年月日/平成27年3月1日
編集・発行/松本市立博物館
〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
URL: http://www.matsu-haku.com
e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp



印刷 川越印刷株式会社